詳細はこちらも！

聴覚障害のある子どもの“見えないがんばり”を支える！

01 リスニング・エフォートという考え方

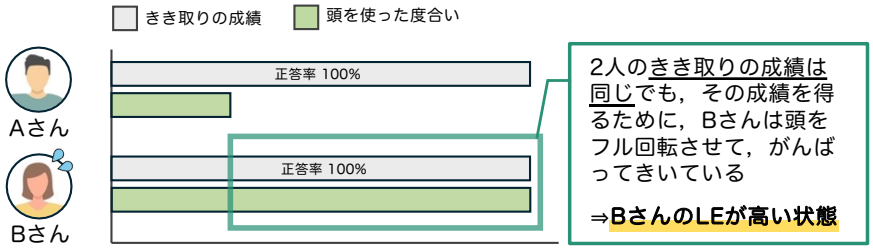
「きき取りづらい状況で，頭をフル回転させながらがんばって話を理解するときに生じる負担」のことを，**リスニング・エフォート（以下LE）**と呼びます。聴覚障害のある子どもにおいては，「話を聞き取れていた」としてもLEが常に高い状態にあることがわかってきました。さらに，LEに関しては**聴覚障害のある子ども自身も無自覚**であり，その困難さが見逃されることも少なくありません。

従来からの考え

きき取とることができるかどうか？

新たに加わる考え

きき取れていても大変なのでは？



02 なぜリスニング・エフォートが重要なのか？

LEが高い状態が続くと「**その場では問題がなかったとしても**」無自覚のうちに①リスニング・ファティーグと呼ばれる**疲れ**が溜まってしまい日常生活に様々な支障が生じたり，②長期的には**言語発達や学業面に影響**が生じたりする可能性があり，後になって問題が現れてきます。

03 リスニング・エフォートの視点から支援を行う！

LEに対しては①従来どおりの合理的配慮の提供と，②LEと向き合って日常生活を見直すという支援が有効です。「**現在きき取れていてもなるべく負担を減らす**」ことへの理解が大前提となります。

合理的配慮を提供する際のポイント

補聴器機を活用する

補聴器を試してみましょう。音声を無線で耳に届ける**補聴援助システム**の活用も重要です。

情報保障を活用する

要約筆記や**文字通訳**を活用しましょう。全てを視覚に頼る必要はなく，LEが高いときの補助として活用する等，幅広く捉えましょう。

環境調整を徹底する

話し方，座席の配慮，視覚情報の活用など**大人側が環境を整えましょう。**
具体例はQRコードを参照して下さい。

片岡・中川 (2021)

LEと向き合って考える際のポイント

- LEがどんな場面で高くなるかを本人と共に振り返ってみましょう。その中で①どうしてもLEが高くなる場面と，②LEを下げることができそうな場面を整理してみましょう。
- あわせて，マラソンのようにLEを考慮したペース配分を考えることも重要です。聴覚を活用したい場面を**自分で決め**そこで100%の力を発揮できるよう，その他の場面では休息をとったりすることも有効でしょう。

子ども自身がLEをコントロールできるよう，専門家の協力を得ながら共に考えていく

Ver. 1.0 (2025.11.28) 作成者：茨城大学 教育学野　田原 敬